

# 投稿規程

---

1. 投稿論文は未発表のものであること。ただし、すでに口頭で発表したものはその限りではない。
2. 投稿論文の長さは、和文の場合はA4版用紙に35字×35行で10枚を、欧文の場合はダブル・スペースで15枚（1枚60ストローク×25行）をめやすとする（文献書誌を含む）。
3. 論文はフロッピーとともに3部提出すること（2部はコピーでも可）。なお、提出の際には、シノプシス（タイプ用紙1枚程度）1部を別紙添付する。
4. 原稿の校正は著者の責任として三校までとする。校正は字句の訂正にとどめる。
5. 論文の採否は編集委員会の責任において決定する。
6. 書式上の注意
  - ①注は原稿の末尾にまとめてつける。
  - ②外国の人名、地名、書名は少なくとも初出の箇所での原名を示す。
7. 掲載論文の著者用抜刷は30部までを無料とする。

---

## 編 集 後 記

---

本号ははしなくも前言語文化教育研究センター長・小田基教授の追悼号になってしまった。小田教授は岩手県立大学に着任以来、研究と教育に専心される一方、本センターの運営に並々な情熱をもって当たられた。氏の努力でようやく軌道に乗り、これからさらに発展する光が見えてきたときに、不幸にして病魔の取り付くところとなり、昨年11月他界された。小田教授は創刊号に「玉蟲左太夫『航米記録』を読む」、2号に「玉蟲左太夫・新資料『獄中からの手紙』」を執筆され、新しい視点から日米交流史に精力的に取り組まれていた。本号には惜しくも遺著となった『玉蟲左太夫『航米日録』を読む—日本最初の世界一周日記—」を書評に取り上げて紹介している。ご一読いただきたい。

本号はもう少しはやく刊行の予定であったが、種々の都合で今日までのびてしまった。編集の責にあるものとしてお詫び申し上げる。次号はもっと時期をはやめたい。締切りまでに完全な原稿が提出されることを期待する。

(K)